



小金井市議会議員選挙の結果について

3月23日に投開票された小金井市議選は定数24人に対し、34人が立候補する多数激戦となるもとで、日本共産党は4505票を獲得し、たゆ久貴候補(3期目)、水上ひろし候補(6期目)、森戸よう子候補(10期目)の3人全員が当選をすることができました。今回の小金井市議選での3人全員当選は、昨年の総選挙での後退を押し戻し、今夏の都議選・参院選にむけて、日本共産党の上げ潮の流れをつくる上でも、貴重な勝利となりました。連日ご支援・ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

日本共産党は今度の市議選で、物価高騰から市民生活を守る「4つの緊急提案」(※)の実施を、消費税減税や石破政権による「大軍拡」ストップと合わせて訴えました。「4つの緊急提案」が届いたところでは「いい話を聞いた。元気が出た」「メモしたいから待って。娘に伝える」など強い期待と共感を寄せていただくことができました。

(※①おコメ券の全世帯への配布、②ガス・電気代・ガソリン代補助〔高齢者・ひとり親・障がい者の世帯、自営業者対象〕、③国民健康保険税1世帯あたり年1万円の減税、④低所得者に家賃補助制度)

また、市立保育園の廃止条例の撤回や学童保育所の環境改善など子育て・教育の願い実現や、市役所建設は設計見直しでコストダウンで進めるなども、学校給食の保護者負担ゼロや補聴器購入補助制度を市民とともに力を合わせて実現させた実績と合わせて訴え、注目と期待を寄せいただくことができました。

さらに、市民生活に冷たく、裏金問題で真相解明に背を向ける石破首相が、10万円の商品券を自民党の初当選の衆議院議員に配布していた問題で、「商品券配布は酷すぎる」「裏金で動く政治ストップ」などと訴えたことにも注目と期待が広がりました。

ひきつづき3人の共産党小金井市議団を先頭に、市議選で掲げた公約実現のために全力をつくす決意です。

2025年3月24日
日本共産党北多摩中部地区委員会
(小金井・国分寺・国立担当)



2025年3月号外

発行：しんぶん小金井社

長谷川博道 070-6666-7717

日本共産党小金井市委員会の見解をお知らせします